

真庭なりわい塾の目指すもの

真庭なりわい塾

渋沢 寿一

(2024/6)



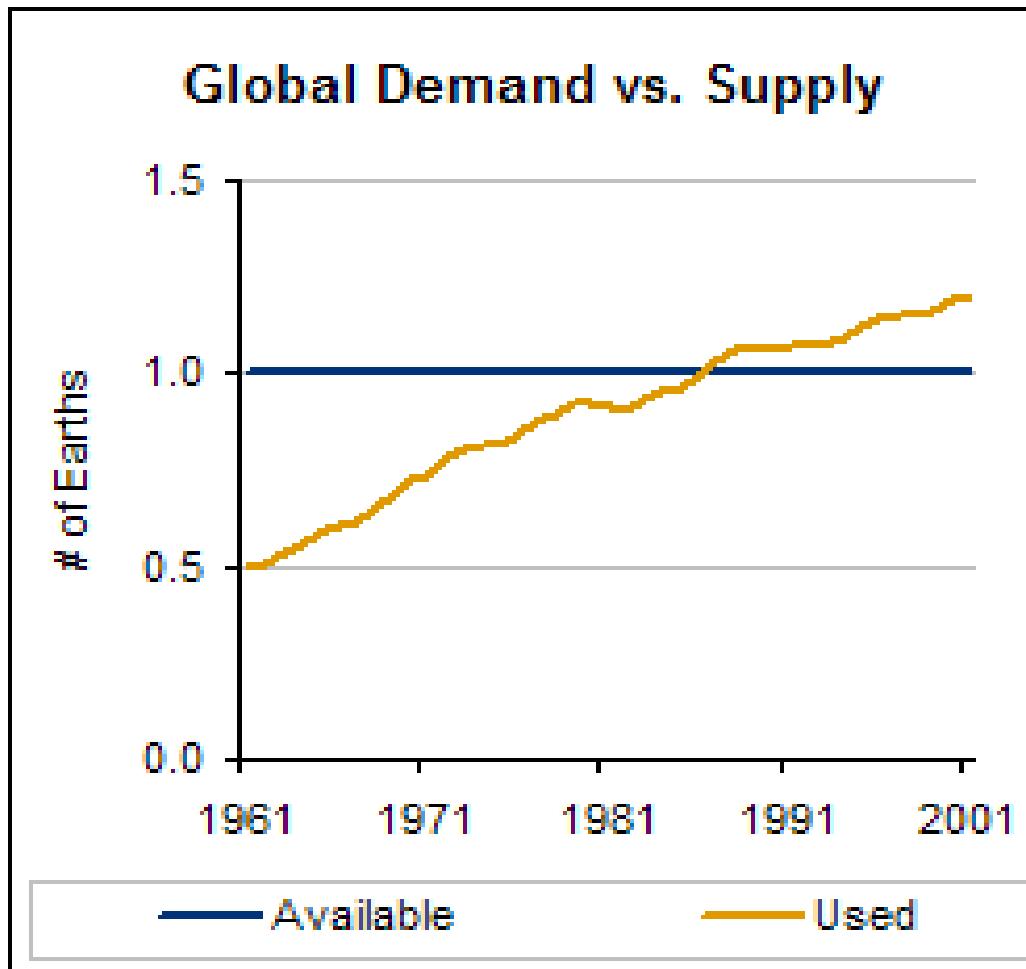
聞き書き甲子園

2002年～現在(今年23回目)

お爺さん・お婆さん 80代以上	お父さん・お母さん 70代～40代	高校生・大学生 10代から30代
戦前生まれ	高度経済成長期	それ以降
数万年続いた	1960(S35)～1965(S40)	60年の実績
農村中心(生きる＝働く)		都会中心(お金の社会)
自給自足		冷凍食品・レトルト
薪や炭		石油・ガス・原子力
体を使って働く		電化製品・パソコン
歩く・馬や牛		自動車・新幹線
伝統的な知恵や技		情報化社会
自然の厳しさ、豊かさ		公害問題・地球温暖化

エコロジカル・フットプリント

— 地球の足形(自然の成長量をどれだけ人間が使っているか) —



76億の人間が、
日本人と同じ暮らしをすると、
地球が、3個必要。
持続可能ではない、
「現在の普通の暮らし」
日本は先進国なのか!?

経済発展の限界

中国が一人当たり、アメリカと同量の**牛肉を消費**すると

⇒ 餌として必要な穀物＝アメリカ合衆国の総穀物収量と同等

中国が一人当たり、日本と同量の**水産物を消費**すると

⇒増加量は、現在の世界の海洋からの総水揚げ量を上回る

中国が一人当たり、欧米、日本と同じ割合で**車を所有**すると

⇒必要な石油8000万バレル/月 > 世界の総産油量6400万バレル/月

中国が一人当たり、アメリカと同じ**炭素を排出**すると ⇒ 世界の炭素排出量は倍増

中国をインド、ロシア、ブラジルに換えても同じことが言える

暴走をはじめた資本主義 (1990年以降のグローバル経済)

コミュニケーションの道具としての「**お金**」、世界中で通用する、公平で共通な「**道具**」



公平だが限度がない(**欲望の抑制が効かない**)

バーチャルな貨幣(株、為替差益、債券‥)の増加・パソコンの普及

ウォール街経済(**貨幣が貨幣を生む仕組み**、リスクの証券化)

実体経済の70~100倍のバーチャルなマネー



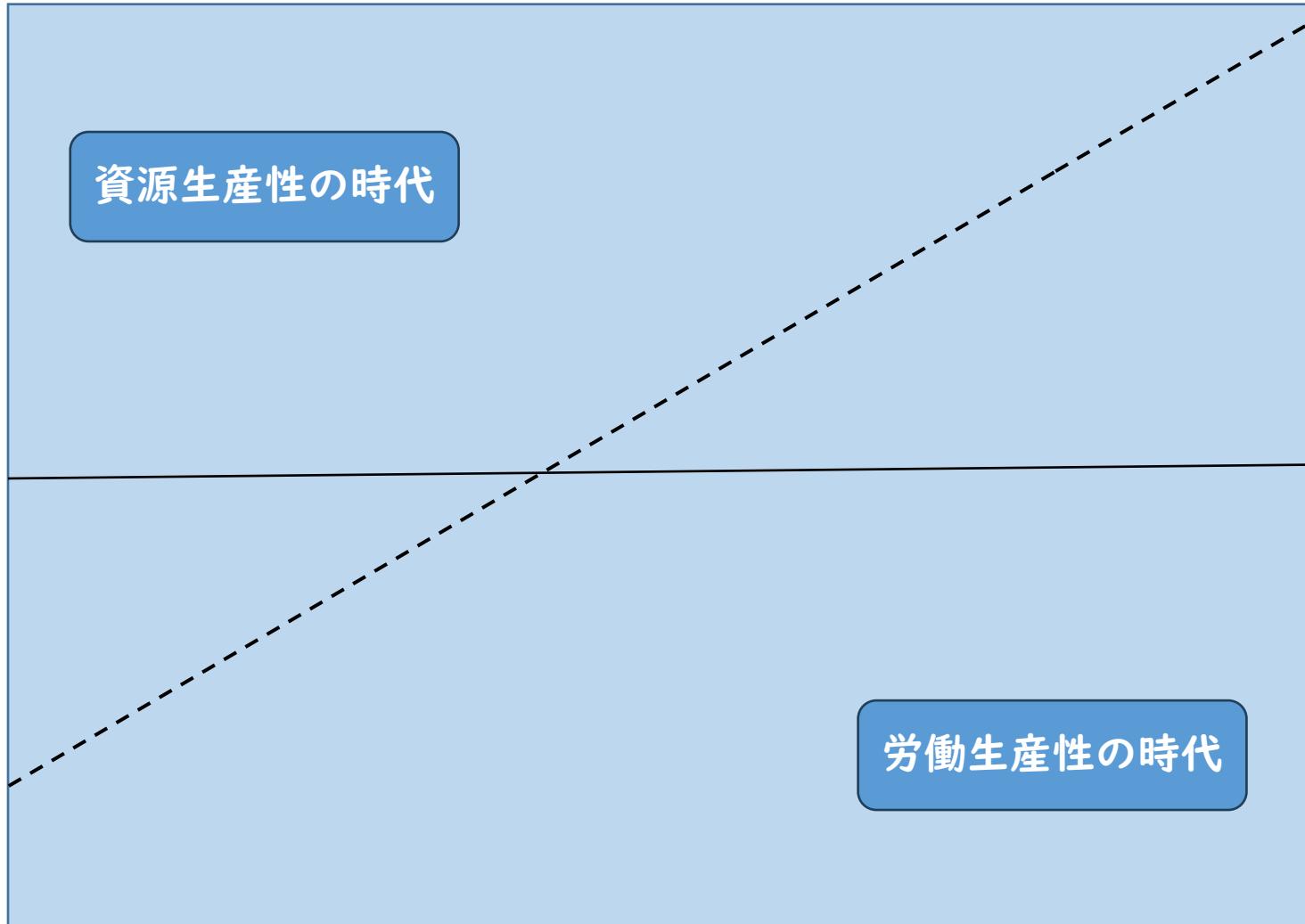
地球は有限、75億の人口の生存を貨幣は担保できるか？

「**いのち**」や「**持続可能性**」を「**お金**」で保障できるか？

そもそも、エコロジー（自然）あっての、**エコノミー**（経済）

世界の**富**の**50%**以上を**1%**の人が持つ(トランプ現象・不公平感)

「直進する時間」と「循環する時間」



江戸から明治

高度経済成長期
(懐かしい昭和)

society5.0

社会のあるべき姿 自分は?

文明(経済・技術・科学)
「直進する時間」
(都市・産業)

文化(自然・知恵・環境)
「循環する時間」
(季節・農)

バランスこそが持続可能な未来



私たちの知る唯一つの「持続可能な社会」

それは、「先祖」から続く、今の「あなた」



奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林

子どもたちの未来に関する予測

子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く

キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）

今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い

マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

労働の意味の変化(戦後70年～現在)

「 GDPを向上させるための労働 」 (経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが幸せ、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。.

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステータス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。

費用対効果で表せないものは価値ではない… 高度経済成長期の論理

(現在～これからの20年)
「 生きる意味を問う労働 」
(meaning of life)

地に足がつき、 コミュニティの中で必要とされる。

自然の中で、その恵みを得ながら、必要最低限のモノを持つ暮らし。

多くの人と、世代がつながっている社会を実現する。

お金より共感や協働。 共感できなくても、地域で共生(自治)。

Do より Be が大切。 働くことは、生きること。

お互いが持つ弱みを許容し、そこから社会づくりを考える…

人生は、「職業選択」ではなく「生き方づくり」

「未来」を見つけるキーワード

地球上で、人間も、他の生き物も、生き続けるには

⇒ 環境・経済・社会のモデル + 生き方・働き方モデル

(SDGs、脱炭素、環境保全、生物多様性)

(価値観づくり・人づくり)

物質的、経済的豊かさだけでなく、生き方をつくる。

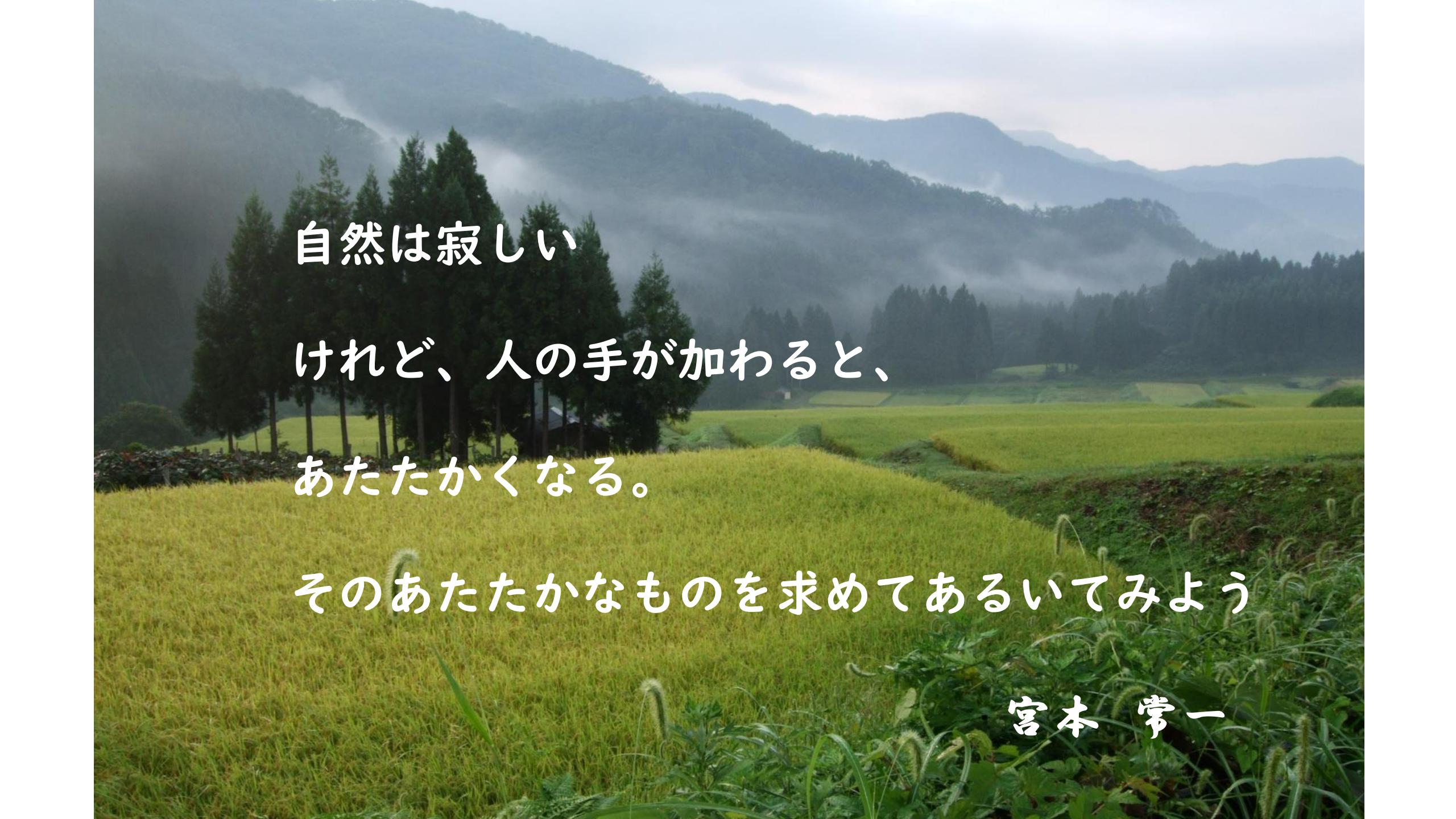
「未来の社会」「幸福」「生きがい」を皆で考える。

「真庭なりわい塾」

地域とは何かー集落の歩き方

風景を読み解く

「地元学」



自然は寂しい

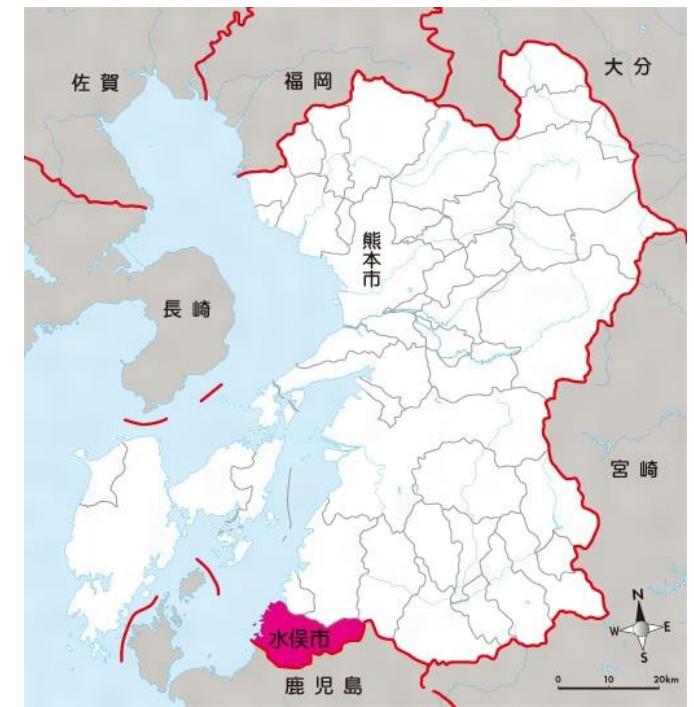
けれど、人の手が加わると、

あたたかくなる。

そのあたたかなものを求めてあるいてみよう

宮本 常一

地元学の誕生ー水俣市ー



水俣病

水俣病を生んだもの、「近代文明」(有機水銀)

水俣病が産んだもの、「差別」「社会の分断」

(福島原発被害、コロナ禍、学校のいじめ、被差別部落と同じ構図)



水俣のピエタ像

→裁判と金銭補償では、
解決しない！ チツソは自分だ。

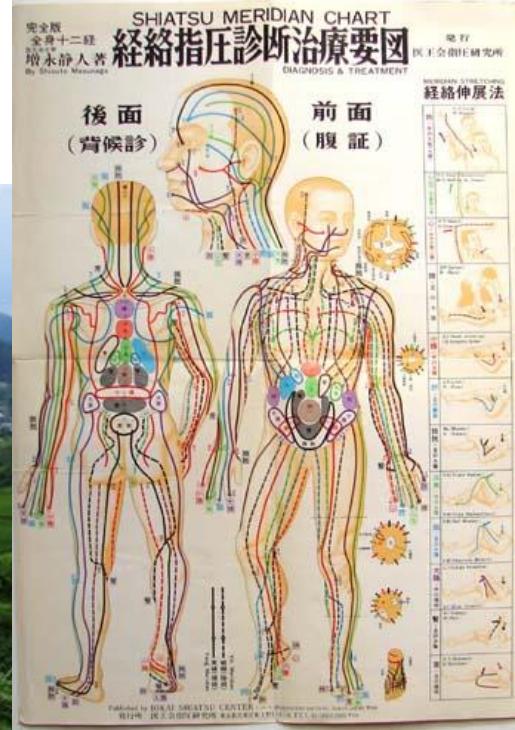
水俣病認定申請患者協議会会長
緒方正人

「地元学」を生み、
環境都市を宣言し、
「舷い直し」
(もやい なおし)

人間関係をつなぎ直す。人と自然をつなぎ直す。
そして、世代と世代をつなぎ直す。

(吉本哲郎)

水の「経絡」



—地域の人と集落を歩く—(地元学)



集落の成り立ち(つながり)と、
地域に入る心得(作法)を、
地域に触れて学ぶ。
地域の、景観を読み解く。



1. 目的

中山間地のそれぞれの集落は、どのような**自然条件**の中で、
どのような**社会の変化**の中で、どのような**知恵**をもって、
それぞれの時代に**暮らし**をつくってきたのでしょうか。

時代は1960年前後、と現在の対比。

上皇ご夫妻ご成婚・・1959年

東京オリンピック、東海道新幹線開業・・1964年

燃料革命前、高度経済成長以前。

石油と農業機械に依存しない時代、

農業ではなく、農的暮らしの時代、

集落はどのような資源と人で成り立っていたか。

その延長に現在があり、未来を考えるヒントがある！

そんな地域の風土や文化、生活、歴史…

人々が今につないできたものを体感する。

「食」と「農」意味の変化

60年前までの「食」と「農」

食 = 生命(いのち)そのもの

自分の身体をつくり、

生かす。

農 = 生きるという行為。

(身土不二、アフリカに農民はいない)

現代の「食」と「農」

食 = お金で栄養素を購入し、

摂取する。

.....(分離).....

農 ≠ 農をベースとした産業(農業)

お金を得て生活をまかなう。

2. 調べるもの

水 (水源、水路、川、谷など)、

光 (日照時間、陽射しなど)、

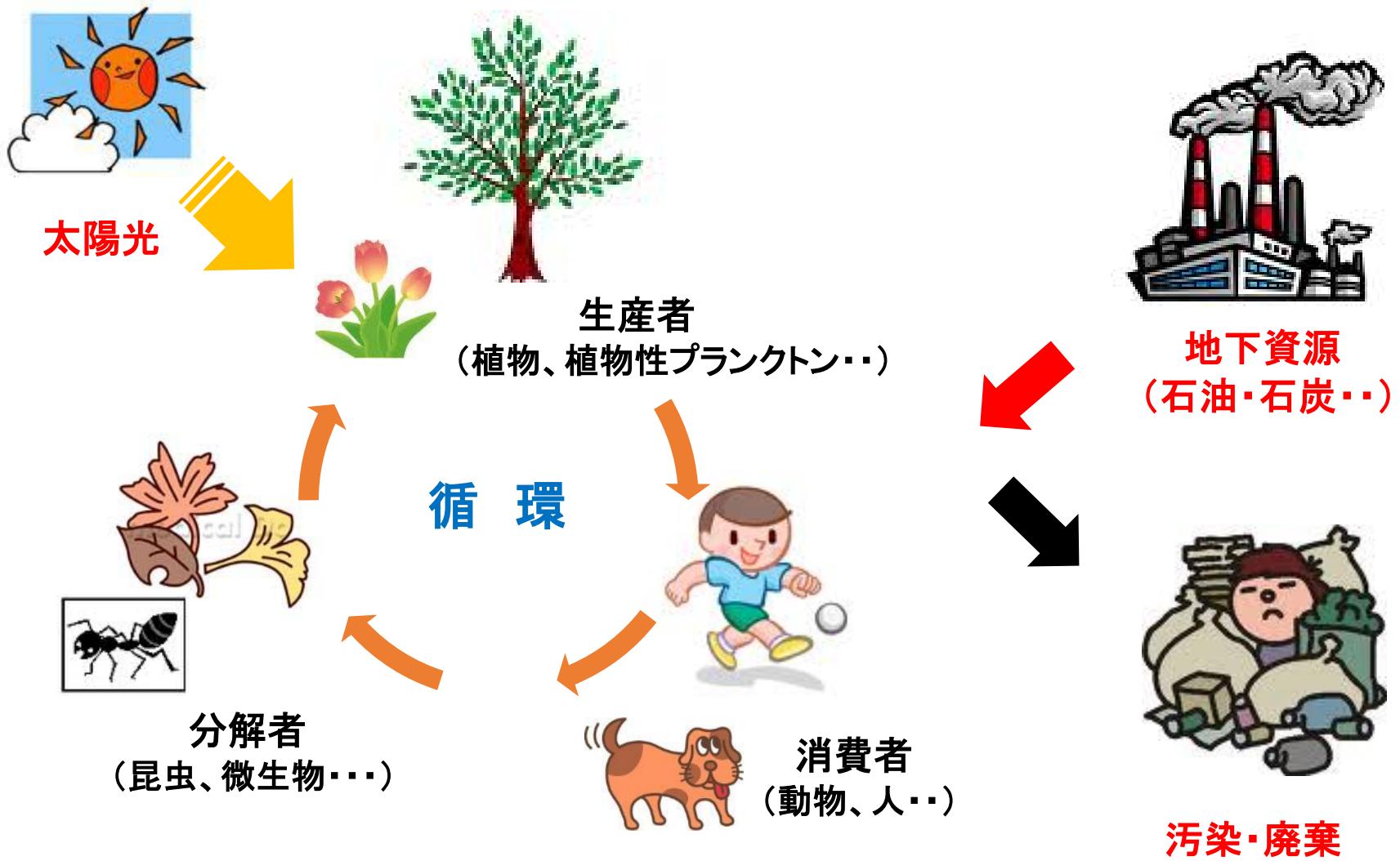
風 (強さ、季節、風の道など)、

土 (地形、地質、地味など)、

生き物 (植物、動物、魚、獵、食害、利用、貯蔵など)

神様・心 (神棚、石仏、信仰、有り難いもの、祈り、祭りなど)

地球生態系 —現代の社会とは—



産業 (日々の生業、稼ぎ、自家消費など)、

食べ物 (種類、日常とハレの日、調理、素材など)、

家 (種類、材、利用など)、

道具 (種類、材、加工など)、

衣服 (材料、機織りなど)、

薬 (調達、自然素材など)、

その他 なんでも、

古いもの、新しいもの、興味をもったもの、全部！

3. 心得

- **先入観を捨てて聞く**…とにかく地元の人の話を聞いて、質問し、メモをとりましょう。
民俗学の知識や、自分の経験を押し付けないように。
- **名所、旧跡調べではありません**…生活の場に当たり前にあるもの、あったもの、人々がどうやって生きてきたのかを調べましょう。
- **対等な立場で聞く**…子供たちにも同じ目線で。
- **具体的な内容を聞く**…
「農業はどうですか」という一般的な質問ではなく、「田植え はいつか」、「茶摘みはいつ頃からか」、「この野菜は地元では何と呼ぶか」、「この草は何に使っているか」など、**具体的**に聞いていきましょう。

4. まとめ作業

- ・模造紙に集落ごと、**タイトルをつけて「地域マップ」**をまとめます。

フィールドワークで気づいたこと、集落の人々が大切にして来たことを書き込み、

手書きのイラストなども加えて、仕上げていきます。

また、発表で投影する写真は整理して、5～10枚をピックアップしてください。

- ・出来上がった「地域マップ」には**過去と現在**が混在します。

その中から10年後の**未来**も想像してください。その集落の人々が10年後に、どんな生活を営んでいるか。何を大切に思い、何を未来につなぐのか。

あなたはどのように関わられるのか、地元の方も交えて、話し合えれば素敵です。

- ・「地域マップ」は、各グループごとに、発表をしていただきます。

田畠と祭りと猪

日付 2013年1月26日(土) 14時から現尾
会場 石巻市先川連合公民館
主催 石巻市先川連合公民館
参加者 10名(内子供 4名)
司会者 1名
講師 1名
音響 1名
撮影 1名
運営 1名

場所 石巻市先川連合公民館



大鹿
で平敷
りせら(月)

+23世帯(計)

4世代

吉田のまち農協

弘法社

子ども園

子供
30~40人

大鹿村

一丁目

寺・まつり

「慈那寺」
開創

・性情に因る説教

・慈悲 仲良しの説教

・うまい方

・おもてなし

一丁目

一丁

5. 最後に

- ・フィールドワークを通じて、参加する私たちは、地元の方にお世話になり、沢山のものをいただきます。

みなさん、それをどうしたら、少しでもお返しができるか、ぜひ考えてください。

一緒に未来を語ること、長い友情をつくること、何度も訪ねること、共同作業に参加すること…いろいろありますね。

参加者にとっても、地元の方にとっても、この出会いが価値あるものとなりますように。

A wide-angle photograph of a rural landscape. In the foreground, a dark river flows from the bottom right towards the center. The banks of the river are lined with lush green grass and some low-lying plants. In the middle ground, there's a cluster of small houses with dark roofs nestled among dense green trees and bushes. A large, dark, forested hill rises behind the houses, its slopes covered in a thick canopy of green. The sky above is a vibrant blue, dotted with wispy, white cirrus clouds that stretch across the horizon.

すべての生命は、多様でありながら、
一つにつながっている。